

年の瀬を迎え初詣の準備に大忙し

破魔矢に絵馬を結びつける作業

(12月23日；豊能神社社務所)

新春特別企画／西年生まれ大集合

町政スポット／12月定例議会・新しい農業委員紹介

人権作文優秀作品紹介 ほか

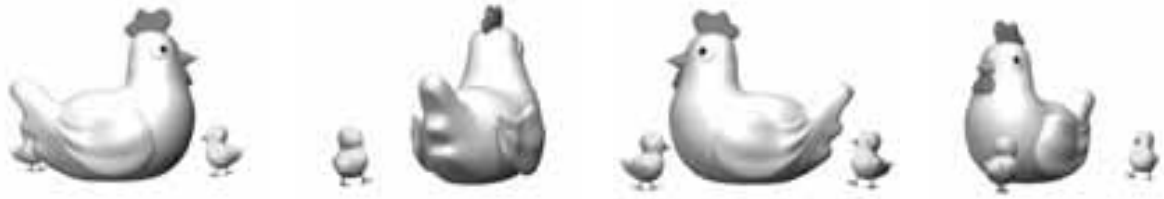
まちの話題／榎平の棚田シンポジウム

詩人「海野秋芳」シンポジウム ほか

広報

あさひまち

2005年1月号  
No. 578



## 新春特別企画

# とんど 酉年生まれ大集合

## わたしの大切な宝物を紹介します

朝日町に住む酉年生まれのみなさんは合計で635人。その内訳は、平成5年生まれ82人、昭和56年生まれ68人、昭和44年生まれ59人、昭和32年生まれ103人、昭和20年生まれ85人、昭和8年生まれ130人、大正10年生まれ92人、明治42年生まれ16人となっています。

それぞれの年代、11人のみなさんに『わたしの宝物』と題して「わたしが今大切にしているもの」「これから大切にしていきたいもの」などについて語っていただきました。



今年は酉年  
とんど

世界の鳥類 約九〇〇〇種

日本鳥学会によると、一年中に日本に定着している鳥は約七〇種。日本列島の66%にあたる森林やその周辺に生息する鳥類は約一四〇種で、半数が国境のない鳥たちです。

これまで、わずか数回しか記録のない種類は一〇〇種以上もいるほか、日本での初記録という報告も時々あり、身近な森林で見られる鳥は意外と少ないようです。

なお、中国では「鳥類起源恐竜説」が裏付けられる羽毛恐竜の化石が、次々と発見されています。

### 身近な鳥たち

朝日町の里山・低山から亜高山帯植生や清流、湖沼の多い森林率77.4%の地域は、日常気がつかない多くの鳥類が行き来しているのかもしれない。

上郷ダムの白鳥は、四月初めシベリアめざし、編隊組んでの北帰行でした。今冬は寒さが遅いせいか十一月中旬に初飛来。しかし、四羽一群が二回ほど。灰色羽毛の幼鳥も少なく、少子核家族化なんてあるのかとも心配されます。



長岡なつみさん  
(太郎一・23歳)

高校で陸上競技をしていた私。決して速い選手ではなかったので、まずは人より自分に勝つことを前提に目標を立て、日々頑張ってきたことを思い出します。でも、走ることが好きなのに思うようにいかず、何度も挫折しそうになりました。そして3年生のある日、その目標を達成！。1年生の時に立てた目標で、少しでもそれに近づけたらいいなという感じていたので、とても嬉しかったです。

今となっては、タイムはもちろんです、それまで積み上げてきた思い全部が、私の大きな宝物となっています。

## 高校時代に積み上げてきた陸上の思い出

私は一ッ沢の山で育ったから、山がいいなんてちっとも思いませんでした。でも、息子夫婦から新緑だ、紅葉だと連れて行ってもらうようになってから、山が大好きになりました。春に行った新潟の三面ダムは、目が覚めるほどきれいでしたよ。いろんな所に連れて行ってもらったり、いつも「ばあちゃん、ばあちゃん」と言ってくれる家族がいることは、本当に幸せで大切な宝物です。

今年も大切な家族のために、うんとおいしい野菜を作るから、畑までの運転お願いしますね。



伊藤キツヨさん  
(能中・83歳)

## いつも私のことを気づかってくれる家族



村山和輝くん  
(大町・宮宿小5年)

ぼくの宝物は、野球道具です。ぼくは野球が大好きです。4年生の時、野球を始めました。それは、将来プロ野球選手になりたいからです。5年生の時、新しいバットとグローブを買ってもらいました。お父さんが「頑張れよ！」と言ってくれました。買ってもらって、とてもうれしかったです。大切にしようと思いました。

友だちも大切です。ぼくは学校から帰ってくると、毎日友だちと遊びます。友だちがいないとさびしいです。これからも大切にしたいです。

## 買ってもらった新しい野球道具と友だち

十二月十四日、前田沢いきいきクラブのみなさんが来庁（右写真）し、手作りの門松一对を寄贈していただきました。ありがとうございます。  
庁舎玄関前に飾ってありますので、来庁の際は、ぜひご覧ください。



頑張り、野鳥たちよ  
全国的に野生の動物が、異常気象か森林の荒廃などからか、人間社会との接触トラブルが絶えない旧年でした。  
新年は、豊かな自然のバロメータでもある野鳥たちにも、逗留や住み心地の良い里でありたいものです。

私の宝は、ひ孫の愛梨です。隣に住んでいるので、よく遊びに来ます。1歳の愛梨は、目がパッチリしていて、歌うと可愛い笑顔で反応してくれます。今でも畑の草取りをし、食事の準備ができるくらい元気でいられるその秘訣は、よく動くこと。そして、何より愛梨がいてくれるから。私が作ったご飯もよく食べてくれるので、とても嬉しいです。一緒に買い物に行ける日が楽しみです。

私の宝、家族みんなの宝の愛梨が、元気に育ってくれるよう願っています。

武田をちよさん  
(栄町・95歳)



## 愛梨と一緒に買い物に行ける日が楽しみ



児珠宏一さん  
(太郎二・47歳)

私の宝は、家族であり友人であり、会社の仲間であります。その中でもやはり、我が子3人の笑顔です。子どもたちとは、スポーツを通じていろんな話しをしたり、練習や遠征にも行きました。子どもたちが一生懸命に頑張っている姿。時には悩み苦しみ、それを乗り越えて勝った時の喜びの笑顔が、私の明日の活力剤になっています。本当にありがたいことです。

これからも、一生懸命頑張っている姿を見せてください。そして、人に感謝のできる子どもたちでいてほしいと願っています。

## 我が子の笑顔が私の明日の活力剤

私の宝物は、明るくやさしい大谷小の6年生みんなです。みんなとは保育園の頃からずっと一緒です。

保育園の頃、みんなと近くを散歩したこと。小学校に入って初めての遠足。宿泊学習。修学旅行。そして、みんなで力を合わせた小学校最後の運動会。全部がいい思い出です。誰かが泣いている時は、みんなでなぐさめてあげて、楽しい時は、みんなで思いっきり笑います。とてもやさしいクラスです。

今年は中学生。これからも、たくさん思い出をつくらうね。

小野佳梨さん  
(真中・大谷小6年)



## 保育園の頃からずっと一緒のクラスメイト



安達正志さん  
(栄町・59歳)

「酒造り」それが私の宝物です。この仕事に携わって35年になりますが、いまだに「これで満足」という酒を造ることができません。しかし、それだからこそ「来年はもっといい酒を。美味しい酒を…」という気持ちになれるのかもしれませんが。生活の中の様々な場面において、酒が取り持つ役割はとても大きいと思います。私が造った酒もその一助となれたなら、これほど嬉しいことはありません。

地元の米と水を使って仕込んだ「もろみ」が発酵する“声”を聞くと、今年はどうな酒に育っているのか楽しみです。

## 終わりがなき挑戦「酒造り」が私の宝です



長岡 巧くん  
(太郎三・西五百川小5年)

3年生の時、校内長距離走大会でもらった新記録のメダルが、ぼくの宝物かな。「よーい、パン!」。初めは、後ろから7番目くらいを走っていました。「ハアハアハア」。ぼくは2周3周とぐんぐんスピードを上げ、自己ベストをめざして最後の1周を全速力で走り、5位になりました。5位まで新記録でした。

練習も本番もきつかったけれど、メダルを見ると今でも、あの時頑張ったことを思い出します。そして頑張ればできることを教えてくれたメダルは、ぼくを今でも力づけてくれる宝物です。

## 頑張ればできることを教えてくれたメダル

私の宝物は、編み針と編み棒です。セーターやカーディガンの模様や編み目の増減を、自分で考えながら編んでいる時が、一番楽しいです。年間に50枚くらい編み上げ、完成したものは友人や近所の人に着てもらっています。中でも、かぎ針で編むベストは好評で、みんなから喜ばれています。80歳になる弟子もできました。編み針や編み棒を持ってきてくれる友人もおり、本当に幸せです。

これからも健康で編み物を続けられるように、ボケ防止に始めた踊りも再開したいと考えています。

遠藤ふみさん

(真中・71歳)



## 編み物に集中している時が一番楽しいです



若月未来 さん  
(沼向・和合小5年)  
清野彩奈 さん  
(小原・和合小5年)

今は、バスケットボールに夢中です。そして、一緒にがんばる友だちが、大切な宝物です。

2年前、2人で男子の練習に参加したのをきっかけに、和合女子バスケが復活しました。練習はたいへんだけど、友だちとの一体感は格別です。9人のチームメイトとは、前よりもずっと親しくなっていて、何でも話せる友だちになりました。

これからも、みんなと力を合わせてやっていきたいです。

## 夢中になれるバスケットボールと友だち

私にとって、やはり大切なものは健康と家族です。特に、二人の子どもはとても可愛いです。昨年は、休みが合わなかったということもあり、なかなか一緒にいる時間が取れませんでした。今年は、子どもたちと一緒にいる時間をもっとつくり、いろんなところに出かけてみたいと思います。そして、思い出もたくさんつくりたいと思います。

そのためにも、健康には特に気を付けて、仕事も私生活も充実したものにしていきたいと思っています。

白田英樹さん

(大谷一・35歳)



## 家族との思い出をたくさんつくりたい



## 町づくり構想の着実な前進に向けて

朝日町長 鈴木浩幸



新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、輝かしい新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

さて、揺るぎないわが町の大自然とは裏腹に、今や世の中は例外なく激動の真っ只中と言っても過言ではありません。地方分権の推進、三位一体改革の断行など、行政を取り巻く環境は厳しさを増しておりますが、私は人口減少に歯止めをかけ次代を担う子や孫が明るい希望を持てる町づくりをめざし、「人口一万人復活構想」の着実な前進に向け、五つの施策に全力で取り組んでまいります。

第一は、町民と行政が一体となった町づくりであります。町民は町づくりに何を望んでいるのか、充分な話し合いを行い協働の町づくりを推進します。

第二は、民間的な手法を取り入れた行財政改革の強力な推進であります。朝日町は昨年十一月に第三次朝日町行財政改革大綱を策定いたしました。実現に向けて徹底した業務の見直しを行い、町民第一主義の効率的な行政運営をめざします。

第三は、子どもを育てやすい環境づくりであります。「次世代育成に関する行動計画」を策定するとともに、この実現に向けて、乳幼児医療費の無料化や保育サービスの向上、そして学力向上活性化対策等に取り組みます。

第四は、高齢者の健康維持対策であります。高齢者の熟年パワーを町づくりに積極的に活かせるような社会参加の場を創出し、高齢者が生きがいを持てる町をめざします。

第五は、産業の活性化であります。基幹産業である農業振興はもちろんのこと、朝日町出身者のネットワークを活用した企業誘致や独自性のある商業環境の整備、エコミュージアムの具現化による交流人口の増加をめざし、町民一人ひとりが豊かになれる町をめざします。

住みやすく、美しく、魅力ある町づくりのために、町民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。そしてまた、新たな希望に胸ふくらませて迎えられるこの年が、皆様にとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

あいさつ

新年

年頭のご

謹賀



## 自立する町を築き上げる最初の年

朝日町議会議長

川口

幸次郎

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、希望に満ちた新春を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

昨年は、三期十二年にわたり町政を担われた清野前町長のご勇退に伴い、激戦を勝ち抜き第六代町長として鈴木浩幸町長が誕生いたしました。清野前町長には改めてそのご功績を称えらるとともに、深甚なる感謝と敬意を表するものであります。また、鈴木新町長には朝日町の若きリーダーとして、これからの活躍を大いに期待するものであります。

また、農家の方にとりましては、度重なる台風の被害や米価の引き下げ等たいへん厳しい年でした。商工業におきましても、長引く景気の低迷により先が見えない不透明な状況が続いております。昨今の社会情勢は少子高齢化や国際化、高度情報化が一層進展している中、三位一体の改革もはつきりした姿が見えず、より一層難しい局面を迎えています。

このような状況の中、朝日町は昨年、町民の総意により自立の道を選択いたしました。平成十七年度は、自立する朝日町を築き上げるための第一歩を踏み出す、極めて重要な年であり、昨十一月、自立の道をめざした第三次朝日町行政財政改革大綱が策定されましたが、この実行に向けて行政とともに議会も一体となつて推進していく所存であります。

町民の豊かな生活は、産業の振興なくしてはありえません。特に、昨年完成した堆肥センターを活用した他に誇れる安全で安心な農作物の生産はもとより、情報発信を積極的に利用した商工業、更には、観光産業の振興により一層力を注いでいく必要があります。

議会といたしましても、町民の皆様の英知を結集していただきながら、住んで良かったと他に誇れる朝日町を築き上げるために、意を新たにし頑張る所存でありますので、本年も変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

町民の皆様のご多幸と、朝日町の益々の発展をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。



## 退任のあいさつ

# ご支援・ご指導に感謝



前助役  
**白井 淑浩氏**  
(62歳・大谷六)

S33 町役場奉職  
S62 家族旅行村対策室長  
H元 家族旅行村  
「朝日自然観」支配人  
H5 総務課長  
H9. 4. 1 助役就任  
H16. 12. 13 助役退任

この度任期途中ではありますが、助役を12月13日付で退任させていただきました。この間、清野町政の補佐役として7年8カ月余りにわたり、町民の皆様方のご指導、ご鞭撻を賜り職責を果たすことができましたことを衷心より厚く御礼申し上げます。

突然の退任の印象を多くの町民の皆様にご迷惑をおかけしましたが、簡単に説明させていただきます。先の清野町長退任に伴い、私も退任させていただきたくお願いをいたしました。その折、鈴木町長に口頭で退任を申し出たところ、町長預かりとさせていただきますとの回答をいただきました。その後、12月10日に書面で提出するよう指示があり、12月13日に受理していただいたところであり。実情をご賢察の上、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

助役に就任してからは、清野町長が掲げる福祉と健康の町づくり、定住対策と環境の整備、活力ある産業振興、教育の振興と文化の創造、町民との対話による町づくりの「五本の柱」実現に向け誠心誠意努力して参りました。

今、地方自治体を取り巻く情勢は、国の三位一体の改革や市町村合併の推進などこれまでにない厳しい変革の時期を迎えておりますが、鈴木町長のもと、町民の皆様方の英知を結集した新たな発想による町づくりで、朝日町の諸課題解決は必ず達成できるものと確信しております。町民の皆様のご健勝と朝日町の益々のご発展を心よりお祈りし、退任のあいさつとさせていただきます。

### ■「学校警察連絡連携に関する協定書」を締結

町内の学校長立会いのもと、寒河江警察署と町教育委員会が「学校警察連絡連携に関する協定書」を締結。少年の非行が多様化、深刻化し、児童生徒の安全を脅かす犯罪や事故が多発している現状を踏まえ、児童生徒の安全確保と非行及び犯罪被害を防止するた

### ■一大消費地「台湾」に向けてりんごを輸出

十一月二十三日に出発式を行い、千四百ケースを輸出。台湾側の引き合いを見て、二回目、三回目の輸出を行う。

### ■堆肥センターの試験運転開始

十月三十日に施設が完成。地元の家畜糞を使い、現在、請負業者が試験運転を実施中。

### ■盛況だったワインまつり

九月二十三日に上郷ダム公園で開催した第25回朝日町ワインまつり。町内外から千五百人を超える入場者があり、盛況に終了。

### ■西原工業団地で操業開始

しばらく休業していた㈱朝日電装が、工場の外装を一新し九月末より操業を開始。現在、従業員は二交代で二十名ほど。近々、設備を新設。従業員を三交代四十名に拡大の予定。町内からも採用したいとの話あり。

### ■当初の設置目標数を上回る合併処理浄化槽

今年度当初百基を予定していたが、設置奨励金の交付が今年度限りということで設置基數も増加。全部で百三十九基の設置見込み。合併処理浄

化槽の普及率も、町全体で49%となる見通し。

### ■平成十七年度末の開通に向け明鏡橋の工事が順調に進む

国道287号、和合バイパス明鏡橋が平成十七年度末までに開通の運び。前田沢差点改良工事は今年度末で完成の予定。一般県道白滝宮宿線太郎地内の自歩道設置工事は十月末で完成、左沢浮島線大暮山地内の道路改良工事もなく完成とのこと。

### ■医療機器の更新で精度の高い検査治療が可能

町立病院の医療機器の整備

について、超音波診断装置及び低周波治療器の更新で、より精度の高い検査治療が可能となる。

### ■遊休農地の解消に向けて

農業担い手の減少や高齢化の進行により、耕作放棄地が増加している現状。これら遊休農地の解消と地域づくりの推進に向けて「朝日町遊休農

### ■自分の思いを喜んで伝え合える子どもの育成

二年目を迎えた県の学力向上フロンティア事業。町内外から約二百人の教育関係者を招き、「自分の思いを喜んで伝え合う子ども」を学力の向上を求めながら「」を研究主題にした公開研究発表会が、町の研究指定校宮宿小学校で開催。家庭、学校、地域の連携のもと、児童の表現力や学力向上等にとりくむと共に、地域の人材をゲストティーチャーとして学習に取り入れるなど、開かれた学校づくりについて高い評価。

# 農業の振興発展を担う

## 新農業委員決まる

### 会長に長岡壽一氏が再選

任期満了に伴う朝日町農業委員会委員選挙（十二月一日告示、同月六日投票）は、定員十一人に対して十人が立候補。定員に満たず前回と同様、無競争での当選となりました。

改選後、初めての委員会（臨時会）

が十二月二十一日に開かれ、会長に長岡壽一氏（常盤）、会長職務代理に鈴木秀一氏（松程）が選出されました。

同委員会は、町の農業振興対策や農地の有効利用促進などを審議する機関として、重要な役割を担っています。

所有権の移転や転用など農地に関することは、お近くの農業委員または、



長岡壽一氏

町農業委員会事務局まで気軽にお問い合わせください。

町農業委員会事務局

☎671-3307

### 朝日町農業委員

会長 長岡壽一（常盤・68歳）  
会長職務代理 鈴木秀一（松程・63歳）

#### 【農地部】

部長 若月慶一（西船渡・75歳）  
副部長 安藤善徳（杉山・69歳）  
農地部 海野和博（送橋・56歳）  
鈴木義昭（大暮山・51歳）  
〃 土改選出 今井正仁（新宿・56歳）  
〃 町議会選出 鈴木光一（大隅・47歳）  
※土地改良区

#### 【農政部】

部長 遠藤邦昭（舟渡・62歳）  
副部長 長岡健一（石須部・63歳）  
菅井賢一（沼向・55歳）  
〃 白田榮一（大谷一・64歳）  
〃 農協選出 浅岡定一（杉山・63歳）  
〃 農業共済選出 阿部賢一（今平・52歳）

それ以外は選任委員  
は選挙委員

め、相互の連携を密にしていることが目的。

■「県立左沢高等学校を支援する会」が設立

左沢高校の特色ある教育活動と学校運営を支援し、存続に結びつけるため、大江、西川、朝日の三町が連携して取り組みもの。今後、会報の発行や学校PR等で、地域住民の理解を高めていく。

■延べ千五百人の入場者が人形劇を楽しむ

国民文化祭開催一周年と町制施行50周年の記念事業として「人形劇フェスティバルin朝日町2004」を開催。昨年、好評を博した町民による人形劇「く神おわす沼く浮島物語」続編の発表や、県内外六劇団による公演が行われ、延べ千五百人の入場者で賑わった。

■今年で40年目を迎えた芸術と文化の祭典

創遊館・西部公民館・秋葉山交遊館・高田ふれあい交流センターを会場に、第40回芸術文化祭を開催。記念事業として特別プログラムを組んだ芸能発表部門では、例年を上回る入場者で「芸術の秋」にふさわしい発表会となった。

■明るい家庭と地域の活性化に

### つながる女性の学習意欲

女性文化教室の発表の場としての女性まつりが創遊館で開催。女性文化教室発足25周年に当たる本年度は、各先生方の発表や作品展示も行われ、大変な盛り上がり。各会員の学習が明るい家庭づくりと、地域の活性化につながることを願い、女性文化教室の更なる継続を望む。

### 県のトップランナーを招待

21回目を迎えるアツプル町民駅伝競走大会を開催。今回は町制施行50周年記念事業の一つとして、スポーツ山形21女子駅伝チームから、吉田進監督と熊坂香織、小鷹幸子の両選手を招待。

### お詫びと訂正

平成16年12月15日発行の広報あさひまち12月号9ページの「旭日双光章（秋の叙勲）の清野力二さんの年齢に誤りがありました。正しくは74歳です。お詫びして訂正いたします。



# 人権作文優秀作品を紹介します

人間には当然与えられるとされる権利「人権」。これをテーマにした作文コンクール（県大会）で、朝日中3年の遠藤麻実子さん（栗木沢）が優秀賞を

獲得しました。多くの方から、中学生の清新で鮮烈な人権感覚に触れていただき、ご家族で人権の尊重について考えてもらえればと思います。

## みんなの幸せのために

朝日中3年 遠藤 麻実子（栗木沢）



私の住む町に、今までたくさんの人に使われ続けてきた古い道路に代わり、新しい国道が通ることになりました。このことは、私たち住民の暮らしにちよっとした変化をもたらしていて、道路をつくるうえで壊さなければならぬ建物を取り壊されたり、その代わりとして新しい建物が建つたりと、私の家周辺の様子が少しずつ変わり始めています。古いものを壊さなければ新しいものはできない。これは当たり前のようにだけれど、その様子をみると、どこか悲しく自分の中の思いが消されてしまうような複雑な気持ちになります。私が幼い頃から当たり前のように見て過ごしてきた家々、道路、自然。古くから時を刻んできた大事な風景を壊してまでつくるべきものなのだろうか。時々、そんな疑問を感じるようになりました。

でも、こう思う反面、新しくできる道路について、興味がわいていくことも事実でした。そして、道路の計画も着々と進められている頃、祖母から「家の土地にも道路がかかるとのことになった」という話を聞きました。少し気になったので、不安に思いながら母に聞くと、売却される土地は、私の家から離れた場所にある建築物の何もない小さな所らしく、父は快く承諾したとのことでした。これを聞いて少し安心した私は、以前持っていた興味がいつの間にか自分の中でだんだん大きくなっていくことに気付きました。私が十五年住んでいた場所の姿が変わってしまうことは確かに悲しい。けれど、新しい道路ができて便利になる人がいるなら仕方ないことなのかもしれないと思いついて始めていました。

一方、私の心境とは裏腹に、ある衝撃的な情報を耳にしました。私の家と同じく土地の売却を頼まれた人の中に、どうしても売りたいくない！という考えを持った人が数人いるらしいのです。そしてふと、一学期での社会の授業を思い出しました。ちょうど今年習い始めたばかりの公民で、「人権」について学習した時のことです。先

生は私たちに「国が、あるところに新しい道路をつくることになり、その道路をつくるためには、ある人の家を壊さなければならぬ。しかし、その家の持ち主が断った場合、国と土地の所有者どちらの権利が優先されると思うか」と問いかけてました。でも、権利についてまだ何も知らなかった私にはとても難しい問題で、最後まで答えは出せないうままでした。すると答えは「土地の所有者は土地の収用に応じなければならぬ」というもので、私の中では心から納得することができませんでした。そして今、同じ問題が私のすぐ近くで起こっています。実際に身近に経験して改めて考えても、やはり納得のいかないひっかかる部分をいくつか感じました。

私たちが人間は、誰でも自由で平等な権利、つまり人権を持っています。それなのに「土地を持ち続けたいと考える一人の人権は無視されてしまうのだろうか」と私も人権を持つ一人の人間として疑問に思いました。こういった場合に人権が尊重されなければ、何のために人権が存在するのか。以前は頭になかった「人権」という言葉を、考えれば考えるほどとても信じたい気持ちになりました。お金では買えないたくさん思い出が詰まった土地を手放す気持ち。もし、私の家が壊されることになったら…。自分のことに置き換えて考えると、人権に対する疑問は更に強まりました。

私は、この日本という国に一人ひとりの権利を保障する権利があることはとても素晴らしいことだと思っています。人権は、今の現代社会に欠けてはならない大切な権利だからです。しかし、憲法では「社会全体の幸せのためには人権が制限されることがある」と記されています。

人権は、時として公共の福祉と衝突し、その意味を失ってしまうことがあるのです。たとえどんなに疑問や怒りを感じても、社会全体の幸せ、今回でいう道路建設で利益を得る大勢の人のためには、誰かが犠牲にならなければならぬということを意味しているのかもしれないかもしれません。残酷のように思えるけれども、簡単には決められない難しい問題を解決するためには、無くてはならないものだと思います。

これから先、社会を生きていく中で、今回のような場面に遭遇することがきつとあるでしょう。同じようにひどく疑問を持ち悩むこともあるかもしれません。その時は、人権を尊重しながらも物事を冷静に見極め、社会に意見できるような人間でありたいと思います。



# まちの話題



## ① 榎平の棚田シンポジウム



### 決意を新たに棚田の保全活動

「神が落とした扇の田 発信！みんなの財産『榎平の棚田』」と題したシンポジウムが12月16日、創遊館ホールで開催されました。山形県ふるさと農村地域活性化基金事業として県が主催したもので、県内全域から地域保全担当者ら約250人が参加する盛大な内容となりました。

棚田の神様中島峰広先生をコーディネーターとして行われたパネルディスカッションでは、今後の農村地

域のあり方について、榎平の事例を先進的なモデルとし、ここ榎平から情報を発信していくことの重要性などが話し合われたほか、中島先生による「棚田に吹く風で地域おこし」と題した講演では、棚田の保全と地域の活性化を考える際、何かしらの収益性をもたらすものの必要性をアピールしました。

またこの日は、協働による町づくり第2弾として広報紙10月号でも紹介した、榎平の棚田を守っていくための地域住民と町との協働による取り組み「ワークショップ成果発表の場」としても位置づけられた内容で、具体的な保全計画をみんなでまとめ上げた保全マップも公開。保全活動の取り組みについて報告した榎平棚田保全推進委員会の志藤勝幸会長（能中）は、「ワークショップとしてはこれが3回目。これまで2回のワークショップに大きな手応えを感じてはいたが、正直言ってこんな大きな規模のシンポジウムまで開催できるものとは思っていなかった。今回多くの方からの参加を得たこと。このことをこれからの棚田保全の活力にしていきたい」と抱負を語っていました。

また、会員12人で発足した「棚田ママの会」が、昼食用にと準備してくれた豚汁と棚田米による新米おにぎりが、参加者に大好評でした。

## ③ クリスマス子どものつどい

### 人形劇のプレゼントはいかが

お話し会「ぶなの実」（西澤敬子代表）によるクリスマス子どもの集いが12月11日、創遊館で行われました。クリスマスを前に、ぶなの実からのお話しのプレゼントとして毎年行われている恒例の行事で、会場はこの日を楽しみにしていた幼児ら約60人の親子でいっぱいになりました。



子どもたちにとっても馴染みの深い「3匹のこぶた」など6つの人形劇が繰り広げられたほか、この日の目玉「ぶなの実キッズ」による人形劇「てぶくろ」も披露。この日が初めての舞台とあって少々緊張気味に始まったものの、みんなでこの日のために10回くらいは練習したという人形劇。ちっちゃな劇団にちびっ子たちから大きな拍手が贈られていました。

## ② 保育園でクリスマス会

### 町誕生から50年を振り返る

町内3つの保育園で12月18日、それぞれのクリスマス会が行われました。

創遊館が会場となったふたば保育園（高沢きく子園長）のクリスマス会は、町誕生50周年を記念した演出が盛り込まれた内容。りんごの絵と「50」と書かれた小旗を手にした園児たちがステージに入場。昭和29年から平成16年までの50年間の出来事を、一人一答で振り返る場面では、「私のおじいちゃんとおばあちゃんがラブラブになりました」「お父さんがおばあちゃんのお腹の中にいました」などという、思いも寄らない園児たちの言葉に、会場は笑いに包まれていました。



## ⑥ 詩人「<sup>うん の しゅう ほう</sup>海野秋芳」シンポジウム



### 朝日町の文学風土を探る

宇津野出身で若くして亡くなった詩人海野秋芳(本名 巳吉)の作品や人間性に迫るシンポジウムが12月12日、旧上郷小学校で開催されました。秋芳は大正6年生まれ。文学仲間の影響で詩を作り始めるようになり25歳の時、詩集「北の村落」を発刊。その詩集に「智恵子抄」で有名な高村光太郎が序文を寄せています。

地元の中学生、齋藤佑輔君(杉山)と長岡愛さん(松原)による北の村落の朗読で始まったシンポジウムでは、元上郷小学校長の佐藤義弘さん(寒河江市)、文芸愛好家の鈴木直子さん(大町)、上郷出身で児童文学者の最上一平さん(東京都)、更に声の出演として阿部宗一郎さん(常盤)らをシンポジストに、秋芳の詩に託した思いや当時の文学界との関係、人間性、上郷の風土などについて、約80人が参加し意見を交換しあいました。

また、上郷小学校白鳥会の「上郷の文化展」では、上郷焼きの<sup>すず</sup>珠洲や絵画、押し花、写真などが展示。NPO町エコミュージアム協会の「かみごうの宝展」。東北芸術工科大学の「海野秋芳展」「朝日町文芸誌展」では、高村光太郎直筆の原稿や秋芳愛用のメガネ、町内の文芸誌「旭華」「かすばみ」なども展示。午前中は「海野秋芳の愛した上郷を訪ねるあさひまち宝紀行」も行われました。

## ⑦ 第31回町家庭婦人V B大会

### ハツ沼若妻会が4年ぶり制覇

第31回家庭婦人バレーボール大会が12月12日、大谷小学校体育館で開催されました。町内から11チームが参加。その結果、4年ぶりにハツ沼若妻会(佐竹幾子監督)が優勝しました。以下の結果は次のとおりです。

- ②チーム前田沢(成原広昭監督)
- ③和合若妻会(長岡裕二監督)
- ③宮宿A(深澤雅人監督)



## ④ おっきなお茶のみ会

### 毎年参加者が増えています

「おくりはしおっきなお茶のみ会」が12月19日、区民ら約80人が参加し送橋公民館で賑やかに行われました。3年前に、NPO町エコミュージアム協会の協力を仰ぎ同公民館の敷地内に石窯を製作。その窯でピザやパンなどを焼いて区民らに振る舞うことで元気な村をつくっていきこうと始まったこの企画。区とは別の実行委員会を組織し運営しているところ、そして、子どもからお年寄りまでが一堂に会し楽しむというところが特徴です。「お茶のみ会」とした訳には理由がありました。

「みんなが協力してくれるので、たいへんなことは何もあります。

毎年参加者が増えているのは、区民からも理解・賛同していただいているからだと思えます」と語ってくれたのは、実行委員長を務める清野孝一郎さん。



テーブルの上には区民らが持ち寄った手作りの漬け物やりんごジュース、笹だんごなどが所狭しと並び、活気に満ちあふれた会場には、この企画を運営する側にも参加する側にも終始笑顔がありました。

## ⑤ 白鳥観察会

### 今年も増えたよ 白鳥の数

上郷子ども会による白鳥観察会が12月19日、上郷ダム公園で行われました。同子ども会は、昨年から白鳥の餌箱をダムの湖畔に設置するなどして、シーズンを通して観察記録を取っています。今年も公園内に餌箱を設置した11月14日から観察日誌は始まっています。日誌には、その日の白鳥の様子が紙面いっぱいに入力されており、これまで飛来数が最も多かった日で55羽となっているようです。当番制を用いているわけでもなく、地域の子どもの自発的な行いが実を結んでいる形と言えます。



同子ども会会長の星野裕太くん(宇津野)は、「白鳥の数が毎年増えていてとても嬉しいです。今日はあまり元気がなかったみたいなので、餌をいっぱい食べてまた元気な鳴き声を聞きたいです」と語ってくれました。



ふと気付くところにある音

何故か心が安らぐ音

みなさんにも聞いてほしい音

目を閉じて耳を澄ませてみて  
ください。日頃聞き慣れない音  
が、私たちの耳に飛び込んでく  
るのがわかります。

十人十色。この町には、心に  
響く音がたくさんあります。

広報あさひまちでは、次の世  
代に語り継ぎたい心に響くわ  
たしの町、朝日町の音を募集し  
たところ、多くの応募がありま  
した。広報紙づくりに町民のみな  
さんからも参加していただこう  
と始まったこの企画。

今回応募のあった「朝日町の  
音」を紹介します。



# おと わたしの町の音

## 子どもたちの声

毎朝、決まった時間帯に班を  
つくり登校する子どもたち。ラ  
ンドセルに付けた小さな鈴の音  
と元気な声が、茶の間に聞こえ  
てきます。今日も子どもたちが  
ら元気をもらいました。

相座アエさん（宿）

廃校になった送橋小学校を思  
うと、地元の子どもの笑いの  
声が懐かしく思われます。

子どもたちの明るい笑い声が、  
あっちこちの家庭からいつば  
い聞こえてくることを願って  
います。 清野和子さん（古植）

私が好きな音風景は、外で元

## カジカ蛙の鳴き声

わたしのふる里木川地区には、  
美しく澄み徹るカジカ蛙の音が  
必ずあります。

春、雪どけ水がぬるみ始め  
ると、あちらからもこちらから  
カジカ蛙の音が聞かれます。あ  
の独特で哀愁を帯びた、か細い  
鳴き声は、何故か心に響きます。  
心がくたびれた時、何よりの

気に遊んでいる子どもたちの声  
です。最近では、少子化や家の中  
で遊ぶ子どもが多くなつたせい  
か、外で遊ぶ子どもたちが少な  
いようです。でも、たまにその  
声が聞こえると嬉しくなります。  
子どもは元気に外で遊ぶのが一  
番だと思います。

清野千春さん（古植）



癒し効果を求め、あの音に逢い  
に行くわたしです。

※木川ダムから古寺方向に進み、  
雉子沢の合流点近くの橋の上か  
らは、必ず聞くことができます。

安藤チヨエさん（大町）

いつまでもきれいな送橋川で  
あってほしい。古植地区民挙げ  
て、送橋川の里親になって頑張っ  
ています。

清野和夫さん（古植）

## 豊龍神社祭礼

一年でたった二日、祭礼の日  
とその前夜祭でしか聞けない笛  
の音。「ピーヒャラ ヒャーラ。  
ピーヒャラ ヒャーラ。ヒャー  
ラ、ヒャーラ。ピーヒャラ ヒャー  
ラ」たったこれだけの短い音の  
繰り返しのなかに、何故か妙に心  
に沁みる。

町内でも名を馳せる賑やかな  
お祭りのある陰で、何十年も変  
わらず静かにおとなしく地区を  
巡るこの笛の音に、底知れぬ哀  
れささえ感じ、思わず「頑張れ  
ヨ！」と声を掛けたくさえる。  
安藤チヨエさん（大町）

## オルゴールの音

旧送橋小学校から、毎朝六時  
に流れてくる『思い出』という  
オルゴールの音。その音は、以  
前から子どもたちや村に住む人々  
をやさしく包んできてくれた。  
送橋の谷間に鳴り響き朝を告げ  
る希望の音。そして未来へと続  
く音。 渡辺豊文さん（送橋）

## 穂擦れの音

澄み切った青空。田面を渡る  
秋風に黄金色した稲穂がさらさ  
らと擦れる。豊作を願い、この  
田園風景をいつまでも残したい  
ものです。 相座アエさん（宿）

# 若宮寺の鐘の音

四季を通して、毎日朝早く、山河に長く尾を引いて「ゴーン」と静かに響く鐘の音。身も心も清められ「今日も新たな気持ちで一日頑張るぞ」と元氣ももたえる鐘の音です。私にとって、一日の出発の音でもあります。真冬の寒い朝、床の中が恋しくモタモタしていると「ダメじゃないか」と叱ってくれる鐘の音。まだ若く働き盛りの時、夢と希望をくださった鐘の音。ありが

とうの一言です。  
変わり行く 世にも負けじと  
鐘の音

村山秀子さん（宇津野）

この町に移り住んで数年が経ちます。朝方目を覚まし、まだスツキリしない頭の中に「ゴーン」という鐘の音が耳に入ってきました。身の震える思いがしました。この町には、こんなすばらしい音があるんですね。

以前私が住んでいた千葉県市川市国府台にも、すぐそばにお寺があつて、朝に夕に鐘を突いて、それが近く遠く響き渡り、何かにつけ気持ちを静めてくれました。いつまでも鳴っていてほしい。鳴らし続けてほしい心の音です。

岡崎千代さん（本町）

毎朝六時。雨の日も、風の日も、吹雪の日も、その音は実に正確におごそかに響き渡ります。宮宿に住んで三十六年。一日も欠かさず聞かせていただいたこの音……。どれ程前から続いている音であろうか。鐘を撞く方の努力を胸にこの鐘の音を聞く時、心が洗われる思いがする。

安藤チヨエさん（大町）

毎朝六時の梵鐘ぼんしょうの響き「コォーン、カォーン」。

日の出の遅い朝は、ひとつ、ふたつ…と数えながら布団の中。すでに一日が始まっている人がいることに感謝しながら、今日の予定を思ったり。

匿名さん



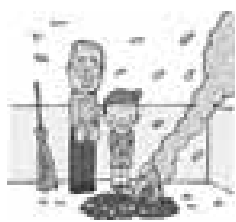
午前6時 この日もまた心に響く鐘の音が鳴り響きました

## 思いの音

私が小学生の時に、学校のグラウンドの隅に落ち葉を集めて、たき火をした時の音が忘れられません。みんなで育てたサツマイモをアルミホイルに巻き火の中へ…。みんなでワイワイ言いながら火を囲んだことを、今でも覚えています。

今では、学校でたき火なんて絶対に許されないうことなので、あの時の思いは、とても心に強く残っています。落ち葉、そしてたき火の温かくて力強い火の音は、私の母校を思い出す音です。

匿名さん



## ミョウケンゼミの声

春、若葉の緑が整い終える頃「ミョウケン、ミョウケン」と鳴き出す小型の蝉がいます。

「あの蝉は、マーケーマークと鳴くから、大豆や小豆の種の蒔き時だ」と、村の長老に教わりました。別名「エゾ春蝉」とも呼ばれますが、最近その声がめつきり少なくなり、自然観あたりまで行かないと聞くことができ

なくなりました。大切に残したい音の一つです。

安藤チヨエさん（大町）

## 農機具の音

朝日町と言ったらりんご。私の家でもりんごを栽培していますが、その栽培過程で使用する農機具の音。中でも、栽培農家一戸当たりの栽培面積が広い朝日町では、やはり朝早くから稼働始めるSS（スピードスプレーヤー）の音に、りんごの町としての力強さを感じます。自分で操作するSSもそうですが、遠く離れた畑から聞こえてくるこの音も、また趣があります。

佐藤優子さん（平）

## つばめ

「今年も来たよ」ピーピー鳴きながら家の周りを何度も旋回するつばめ。まるであいさつしているかのように…。「よく戻って来たね」と空を見上げながらほっとするひとときです。

## 台所に響く包丁の音

朝な夕なに野菜を刻む包丁の音。温かいみそ汁の香り。毎日台所で繰り返される自然な光景を、今は亡き母の姿に自分を重ねる時、遠い記憶の中に母の包丁の音が蘇よみがえってきます。

相座アエさん（宿）

# 朝日町の原風景

写真コンテスト作品 vol.19

## 佳作 晩秋のダケカンバ



朝日連峰の雄大な姿と素晴らしい景観が魅力で、秋には毎年のように妻と二人で登山を楽しんでいます。重いリュックにはカメラ機材も一緒に背負って途中の美しい風景を撮り、一步一步山頂をめざしながら8時間以上もかかってどうにか大朝日小屋に着きます。

この作品の風景は、私が好んで撮る場所で、いわばホームグラウンドとでも言うべき所。斜面の山肌に既に葉を落とした白い「ダケカンバ」が、光を受け点在し美しい模様を描いていました。その晩秋の1コマをとらえたものです。

撮影者 布川貞雄 さん(寒河江市)

おめでとうございます

皆様にとって、今年が素晴らしい年でありますよう、広報委員一同からご祈念申し上げます。  
今年も、皆様に親しんでいただける広報として、より一層心がけた企画づくりにより努めますので、ご指掌、ご鞭撻の程をよろしくお願いたします。

広報委員長 志藤 靖則(能 中)

同副委員長 登坂ひかる(八ツ沼)

広報委員 熊谷 貞則(企画課長)

村山 茂雄(大谷七)

遠藤由美子(舟 渡)

清野 則昭(四ノ沢)

阿部 幸枝(太郎三)

高坂 美紀(大 町)

菅井千代太(大 隅)

清野 千春(古 楨)

五十嵐武喜(本 町)

阿部久美子(商工会)

白田奈美子(大谷五)

鈴木 麻未(総務課)

白田 征治(産業振興課)

佐久間 淳(税務町民課)

高取のぶ子(健康福祉課)

長岡 昭博(建設課)

阿部 祐子(管理課)

安達 和史(生涯学習課)

担当係長 阿部喜栄治(企画課長補佐)

担当者 早坂 健一(企画課)